

2014（平成26）年4月1日

## 学校法人帯広大谷学園帯広大谷短期大学における 研究費の使用に関する行動規範

大学における学術研究は、社会からの信頼と負託によって支えられている。研究費（※1）の不正使用は、その信頼と負託を大きく損なうものであり、それを起こした者が所属する機関だけではなく、我が国全体の学術研究の発展をも阻害しかねない。このことを踏まえ、本学は、学術研究の信頼性と公正性を担保し、学術研究業務に対する国民の信頼を確保するため、次のとおり研究費の使用に関する行動規範を定める。

本学の構成員（※2）は、これを誠実に実行しなければならない。

- 1) 構成員は、研究費が大学の管理する公的な資金であることを認識し、公正かつ効率的に使用しなければならない。
- 2) 構成員は、研究費の使用に当たり、関係する法令・通知及び本学が定める規程等、並びに事務処理手続き及びルールを遵守しなければならない。
- 3) 構成員は、研究費の計画的かつ適正な使用に努めるとともに、研究活動の特性を理解し、効率的かつ適正な事務処理を行わなければならない。
- 4) 構成員は、相互の理解と緊密な連携を図り、協力して研究費の不正使用を未然に防止するよう努めなければならない。
- 5) 構成員は、研究費の使用に当たり取引業者との関係において国民の不信や疑惑を招くことのないよう公正に行動しなければならない。
- 6) 構成員は、研究費の取扱いに関する研修等に積極的に参加し、関係法令等の知識習得、事務処理手続き及び使用ルールの理解に努めなければならない。

（※1）研究費とは、本学研究費、寄付金、補助金、基金、委託費等を財源として本学で扱うすべての経費をいう。

（※2）構成員とは、文部科学省が制定している「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に準じ、本学に所属する嘱託職員を含む、研究者、事務職員、技術職員及びその他関連する者をいう。